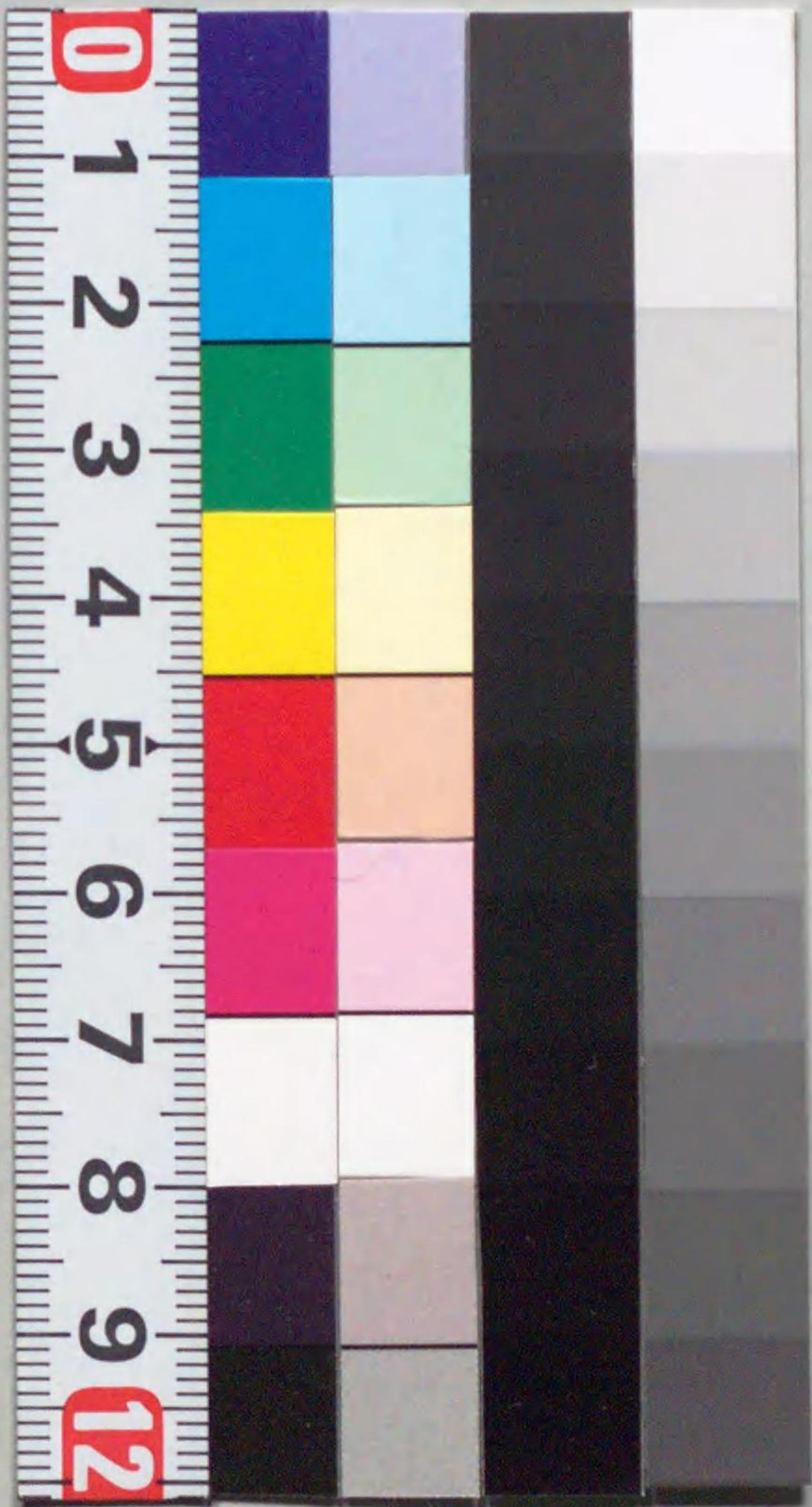


興亞國策と朝鮮

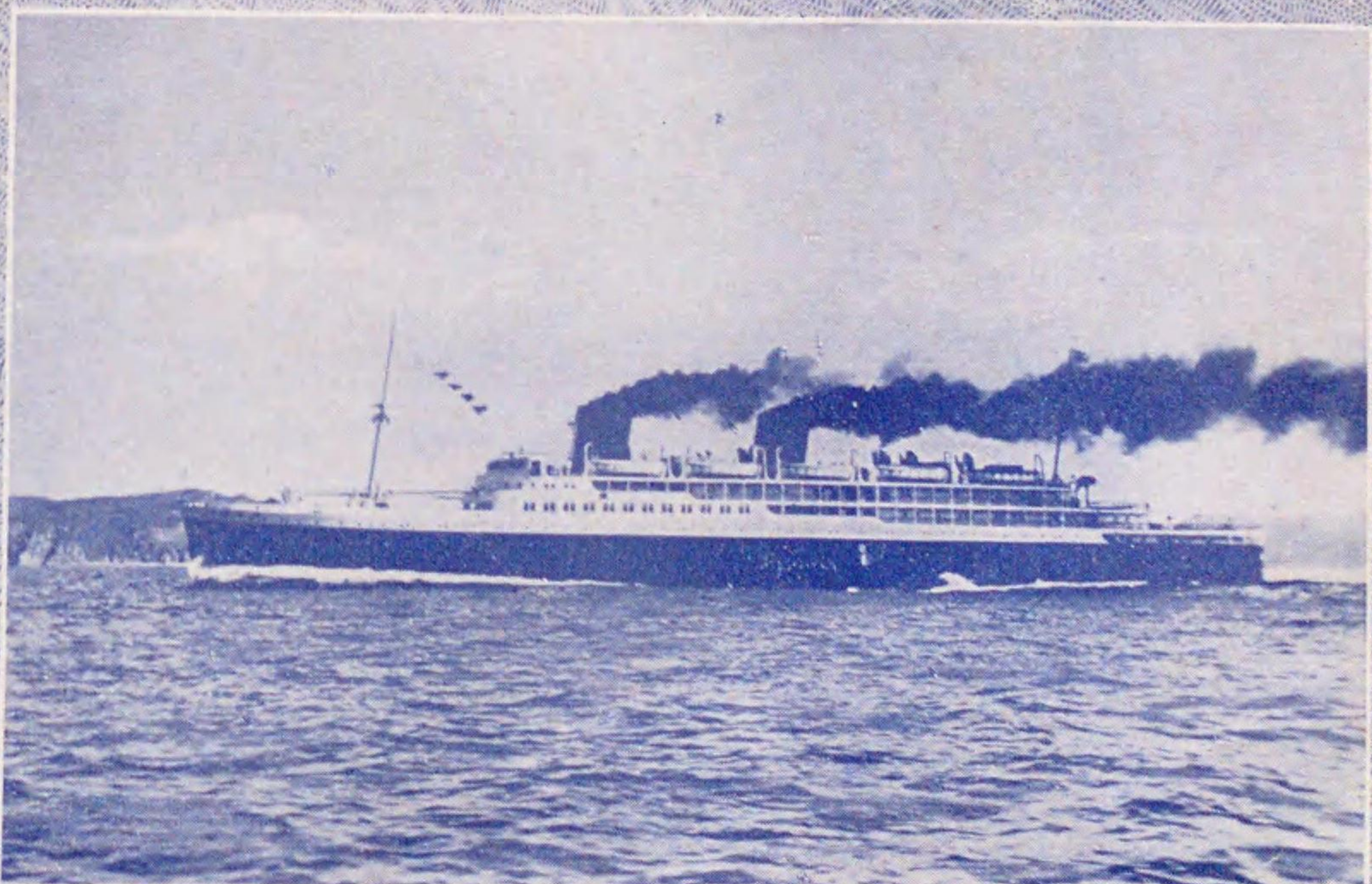
Y994
J5073





I 種
W

Y994
J5073



關釜禪船



1200800160397

興亞國策と朝鮮

一、地理と歴史の示唆

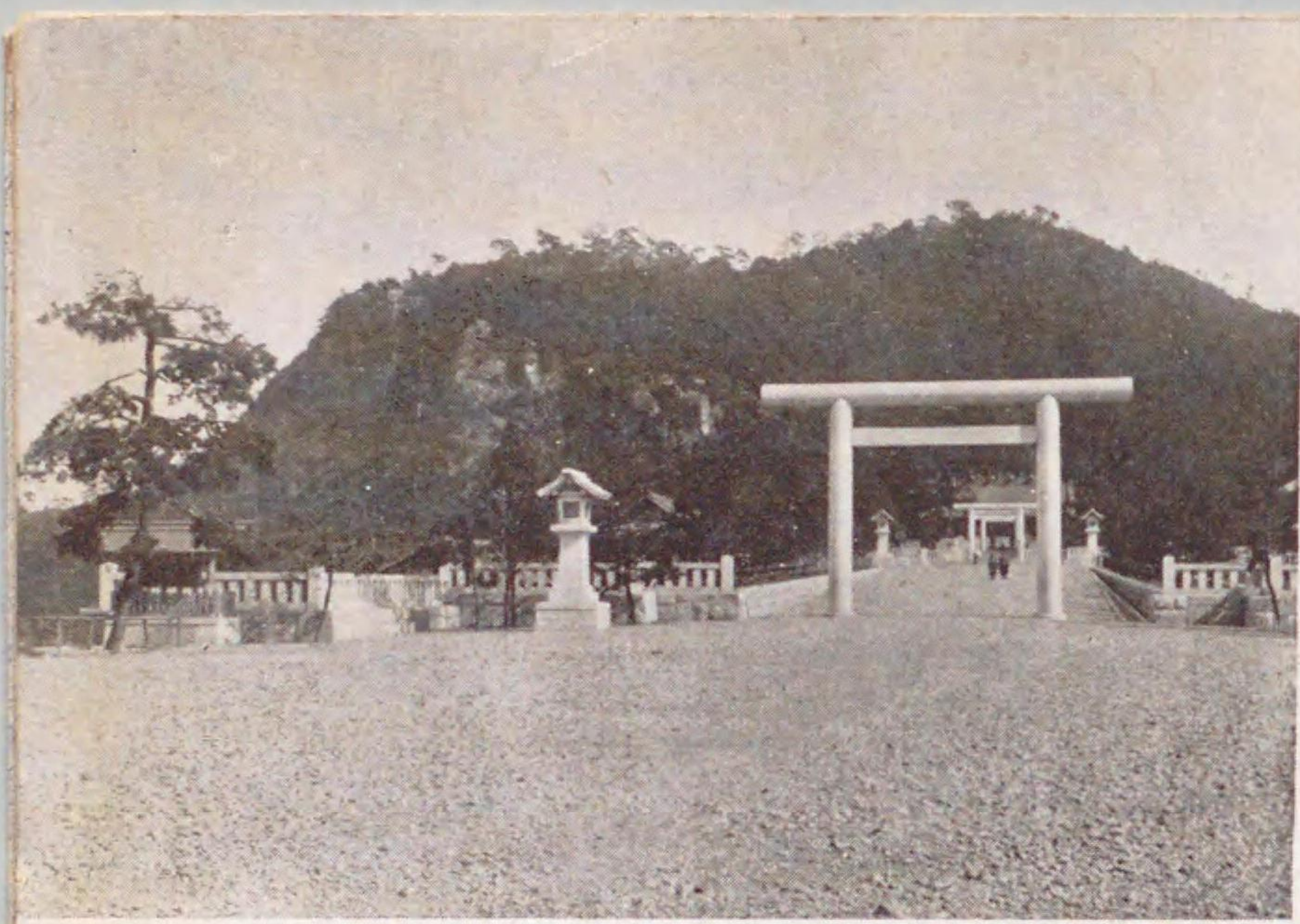
試みに東亞の地圖を披き見よ、日本列島は東亞大陸の東に沿ふて恰かも防波堤の如くに布列し、内にオホツク海・日本海・黄海・支那海を湖沼の如く抱き、外太平洋を經て世界から打ち寄せる風波を防いでゐるかに見へる。而してこの列島から大陸に渡るための棧橋の如く突き出てるのは朝鮮半島の姿である。この自然の構圖は即ち朝鮮半島の帝國國是に對して負ふ使命を暗示するものではないか。

また試みに東亞の歴史を繙き見よ。太古より上古の代に互り、日出づる方に向ひ、沃土を尋ね、聖王を慕ひて移動した進取的な大陸の民種は、多く此の半島を經て日本に流れ入り次いで大陸に生れた多くの文化財もまた隋・唐から直接舶載するまでは半島の仲介を經て齎されたのである。飛鳥、奈良兩朝文化の血となり肉となつた儒・佛

の教學をはじめ、天文地理・鍛鐵・建築・造佛・彫刻・繪畫・音樂・造園・釀酒・藥劑・裁縫・瓦焼等々が百濟以下の三韓より傳へられた事績はよくこれを物語る。即ち半島は昔の日本文化の育成に重要な役目を荷ふたと謂へるだらう。

かくして肇國三千年、東亞各民族の血液がこの國內に於て錯綜・渾融し、一系の皇統のもとに優秀無比なる日本國民を構成し、東洋古文化の粹を集成したる上に泰西近代文化の長所を攝取して獨特の日本文化を創造したのである。教學ために興り、産業のために榮へ、人口ために増加し武備ために整ひ、それらの力、國內の充溢して、古昔の郷土たる東亞大陸に向ひ、文化の逆流を開始したのが明治以後に於ける東亞情勢の姿ではないか。神は東亞民族が互に相凌轢して衰亡の因を積み、近くは白人列強の侵略を受けて累卵の危機來るべき日のために恰かもノアの箱舟の物語の如く、他日東亞の運命を救ひ戻すべき力の源、生命の種子をひそかに日本帝國の中に匿して置いた——と逆説的に言へないことはあるまい。それは若し日本無かりせば、全東亞の運命が今日如何なる殘虐に曝され、如何に危亡に瀕して居たかを想像することによつて得らるる感銘たるべきであり、今支那事變の「聖戰」たる理由の中に含まるゝ大なる示唆で

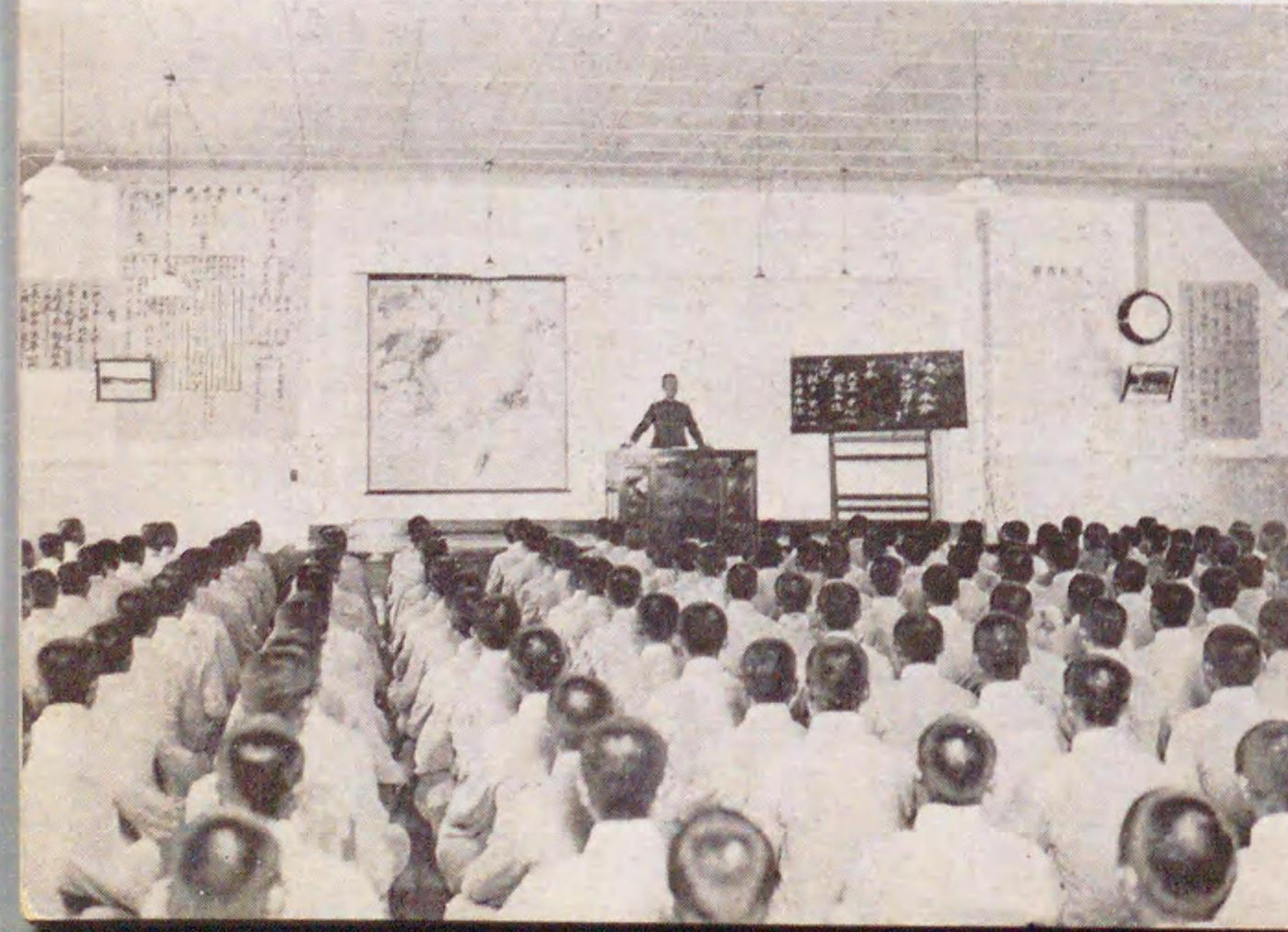
官幣大社朝鮮神宮



公立小學校



志願兵訓練所講堂訓話

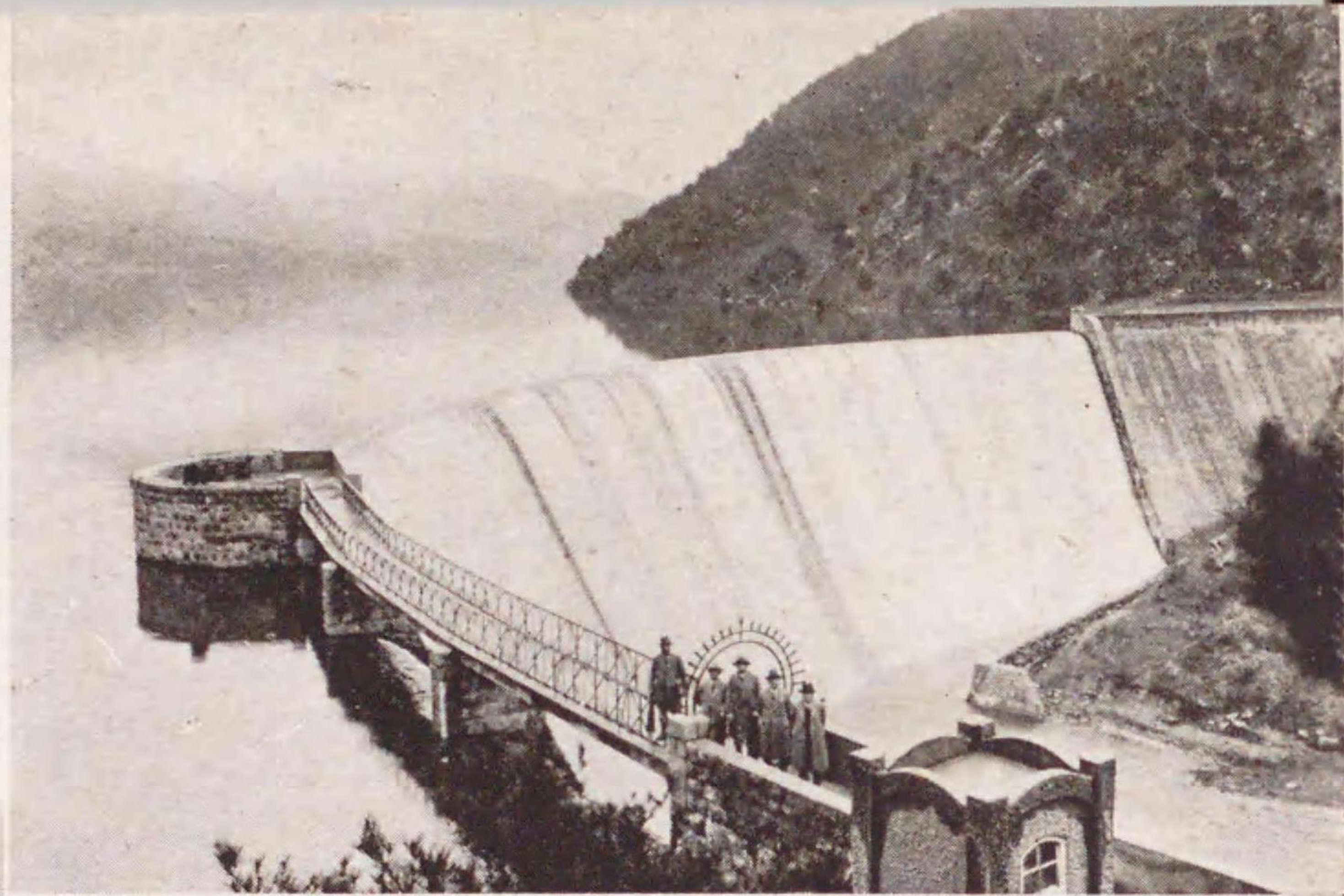


なければならぬ。

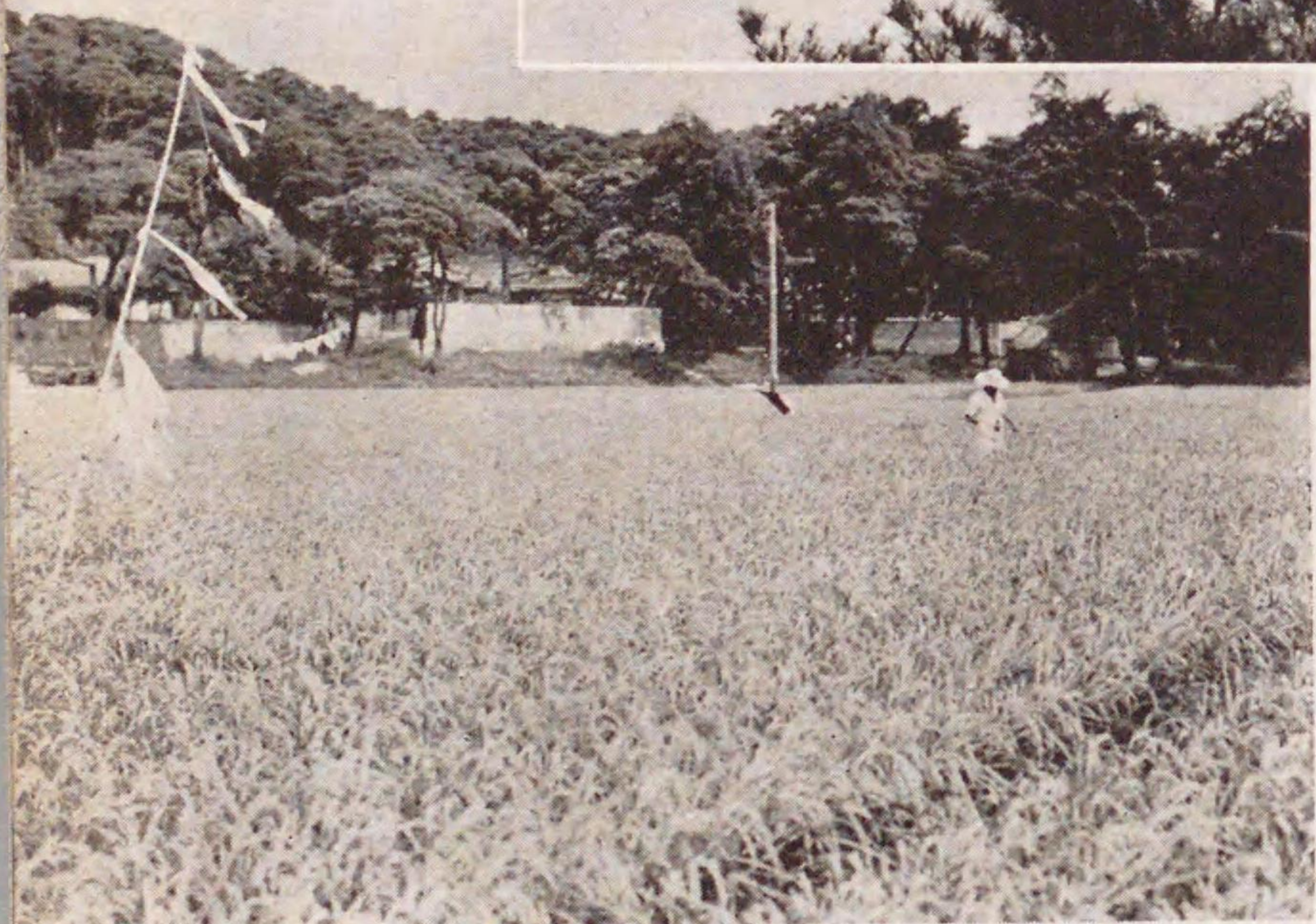
二、大陸前進兵站基地「朝鮮」

朝鮮は帝國の大陸政策上に於ける前進兵站基地である——との見解は南總督のとある講演中の言葉に端を發したのであるが、それが廣義國防の上に占むる半島の使命職能を端的に表現するものとして早くも一般の通念となつてしまつた。

内地と大陸との間には幾つもの海が横はり、平和の日には湖沼の如く安全であるが一朝風雲荒れるとき、相手國の如何によつては無論、日本の海・空軍の嚴然たる威容を考慮に入れてもなほ軍事輸送上萬一の危険を豫想するを以て妥當とするであらう。我等は三十餘年前日露戦役に際し常陸丸・佐渡丸・及金州丸の犠牲に對し朝野愕然として色を失つた往時を想起すると共に、たとへ將來戦に於て大陸作戦軍に對する軍事輸送路が萬一脅かさるゝ場合ありとしても、其の或期間に於ける軍需物資を大陸接壤の領土たる朝鮮に於てこれを賄ふ用意を有せなければならぬ。此の朝鮮の職能は今時事變下に於ても、豊富なる食糧雜貨等軍需物資の供出を初めとして相當に發揮せられ



益沃水利組合貯水池



稔の農村



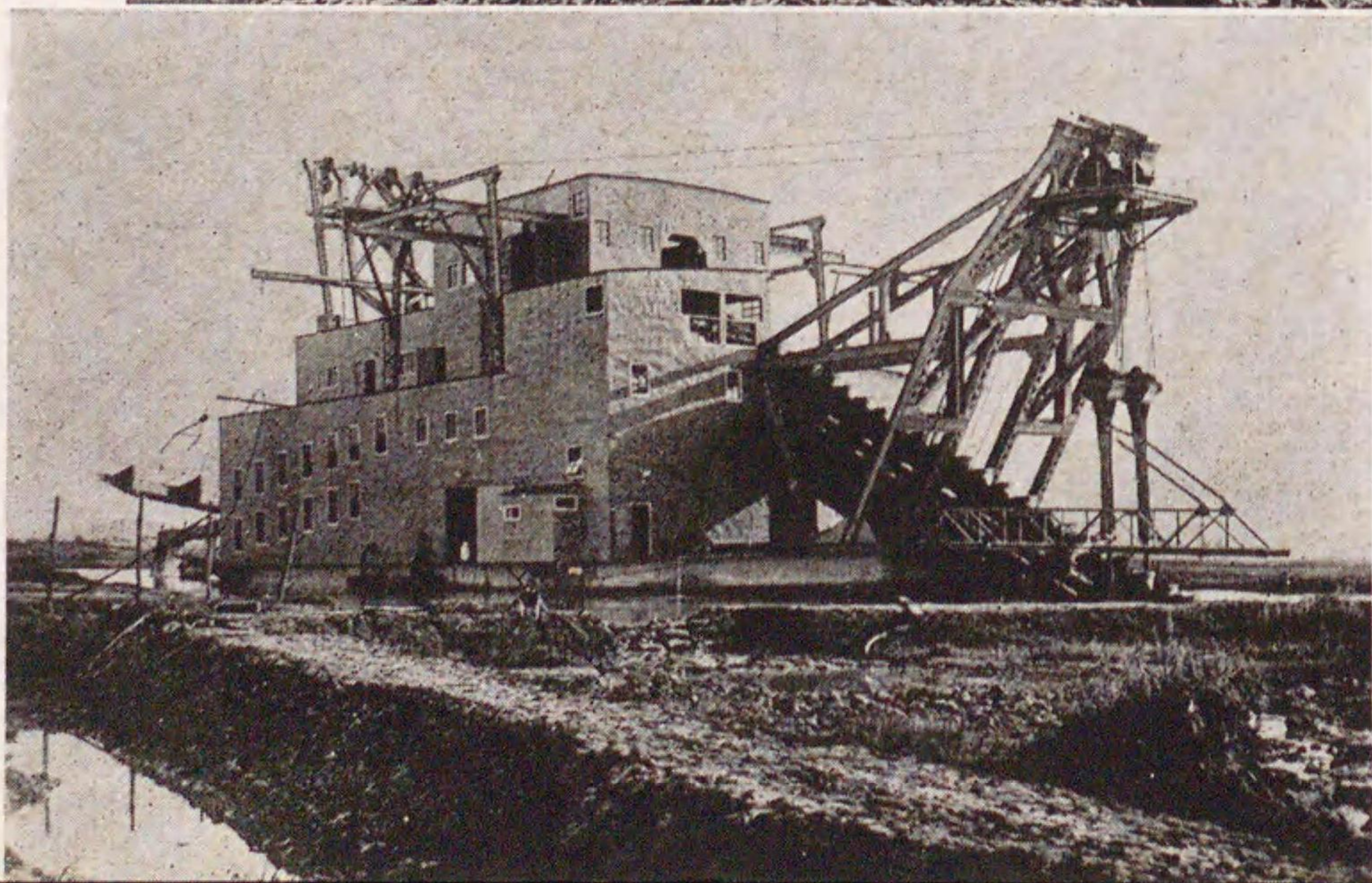
米の積出



緬
羊



いわし豊漁



採金ドレンヂヤ

また過ぐる満洲事變の後以來、工鑛業勃興の機運が次第にその濃度を加へ行く傾向も極めて顯著ではあるが、無論未だ現状の程度を以つて満足さるべきではなく、更に交通・運輸網を擴充して廣汎なる諸資源を開發増殖すると共に、重工業・機械工業・化學工業等の精密産業の急速なる發達を圖り、兵站基地たるの名實を完備することは廣義國防に對して負ふ朝鮮の任務であつて、此の認識は内鮮滿に互る一流の識者、専門家多數を委員として開催された朝鮮産業經濟調査會（昭和十一年九月）時局對策調査會（同十三年九月）の二大會議に依りて確立され、爾來「農工併進」の政策下に着々實現を期しつゝある所のものである。此のことは軍機に關涉するために具體的にその計畫性を明にするを得ないが、豊富なる鑛物を初め、農・林・畜・水産の各資源の有望なる現状及前途と、脊梁山脈に得らるゝ大量の水力電源・其他勞力・工場敷地等一として可ならざるなき立地條件が兵站基地半島の使命遂行の可能を物語つてゐる。

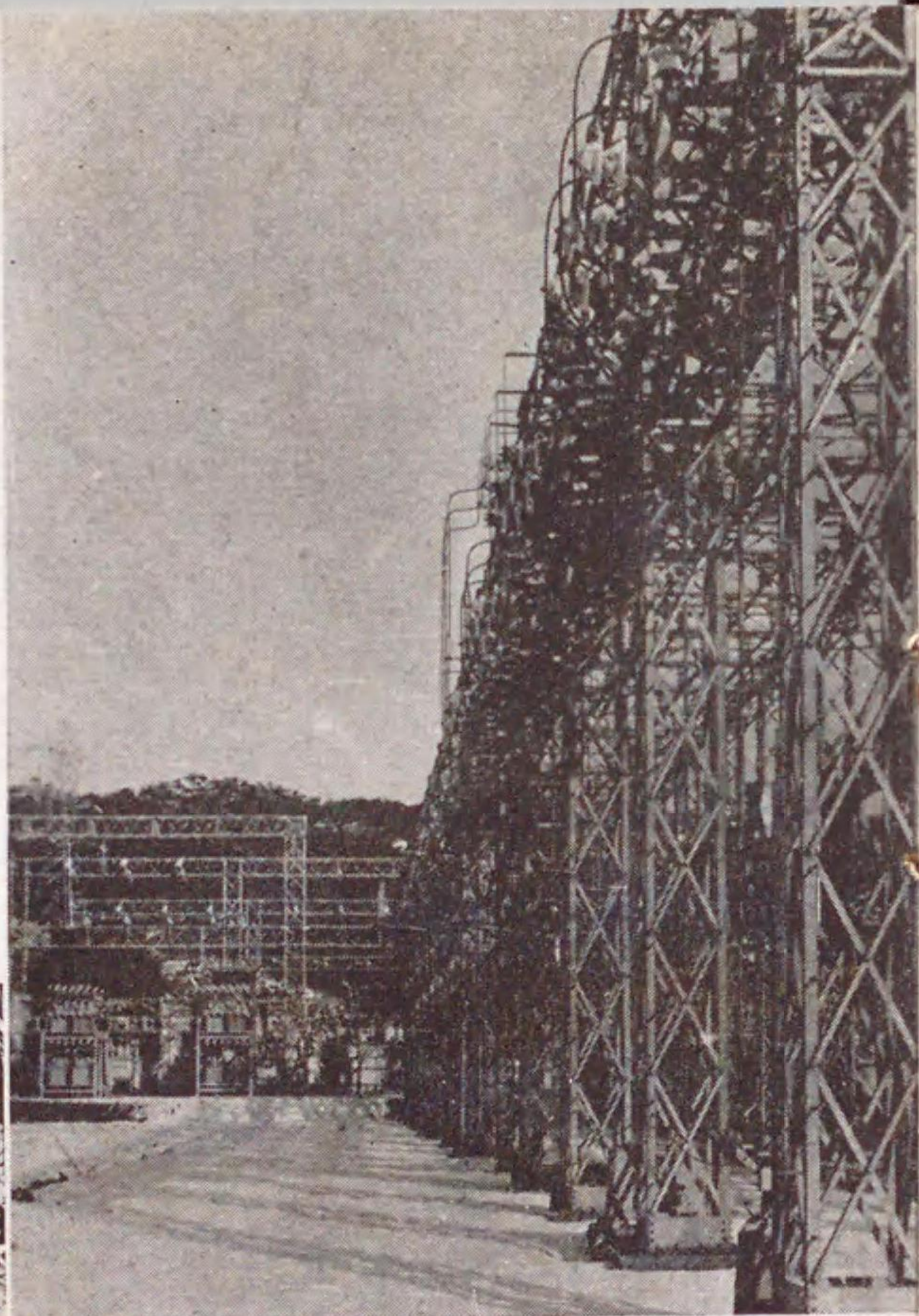
三、東亞協同と内鮮一體

民族は自決すべきではなく、協和せねばならぬ——これ支那事變から學び得る東亞

八

民族の最大教訓である。民族の和融協力から成る満洲帝國が創建以來、短年月にして國礎を築き、比類を見ざる繁榮と福祉とを享受するに至つた事實に眼を掩ふた狹量なる抗日反滿の支那人によつて無前の悲劇が発生し、而して蒙疆をはじめ支那主要地域の皇軍戦果のあとに、民族協和の原理が把握され、具體化するゝ所に平和の光は輝き初めて居る。

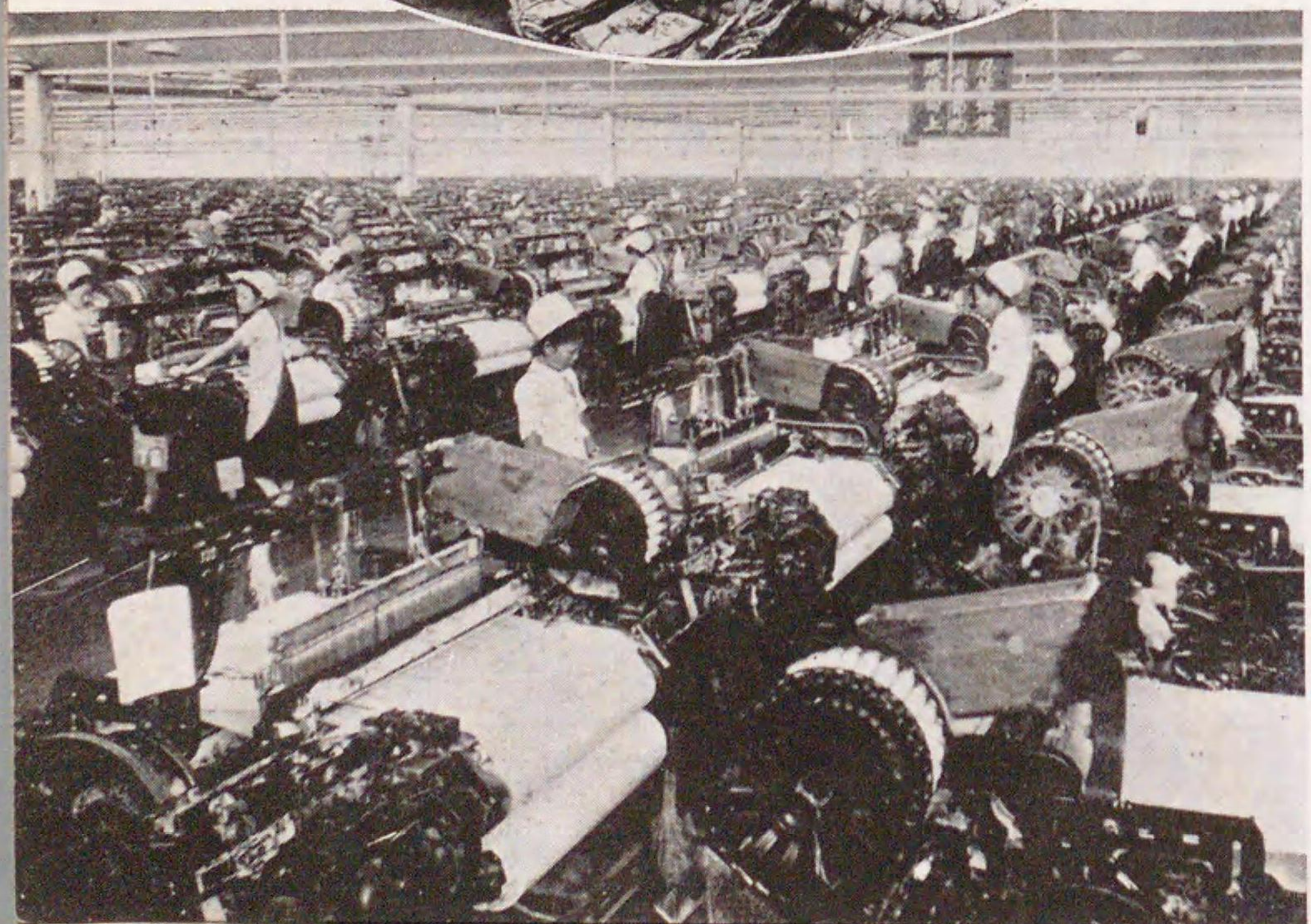
この東亞の新平和機構建設の理想に對して無限の示唆を投ずるものは朝鮮統治三十年の政績と及びその統治理念の特異性である。何人も知る如く朝鮮統治は「一視同仁」の聖旨をそのまゝに奉體して行はれ、一日も早く半島同胞の生活水準と福祉とを内地國民のそれと同じ高さまで引上げることが目標として一切の施政が運営されて今日に至つた。もとより其の過程の或る時期に於て此の眞意が正解せられず不幸な事件を生んだこともありはするが、この公明なる大精神が竟には理解せられざる筈なく比年和融の度を加へ、滿洲事變に會ひ支那事變を迎ふるに當つて帝國の東亞を綏緝する崇高なる使命に對する認識の増加と共に、半島同胞は小なる民族感情を乗り越へて大なる國民意識に徹底し來り、二つのものが一となり切らんとする努力が、異常なる感



水電、變電所



硫安



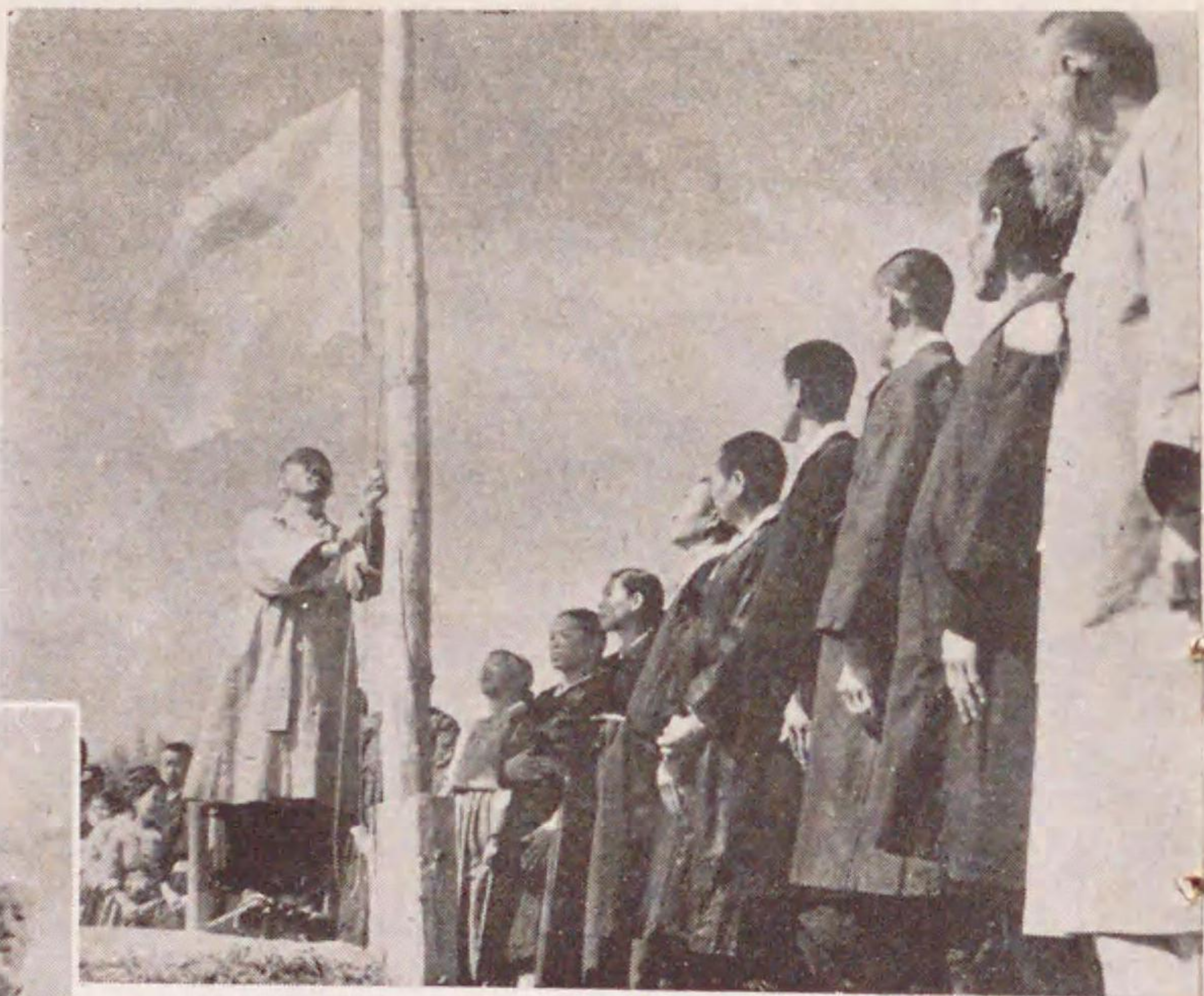
紡織工場

激のもとに續けられて居る。

基づく所は 天皇の大稜威でなければならぬ。即ち一視同仁の聖旨より出づる共存同榮の統治原理である。歐洲の植民帝國主義國家が世界到る處の有色異民族に對して施す所の搾取原理——即ち原住民族の自由を尊重するが如き外觀の下に其の無知迷妄を放任し、その智能を能ふ限り低き水準に停むることによりて搾取的支配を繼續する植民政策的手法と全く出發點を異にし、同時に到着點を異にする所以である。

聖戰下澎湃たる半島同胞の愛國心はかくして起り、その赤誠は天を動かして陸軍特別志願兵制度布かれ、普通教育に於ける内鮮の區別撤廢は行はれ、在外同胞に對する皇國臣民としての待遇方針も亦決定した。而して半島の前進兵站基地たる物的・經濟的使命と共に、人的・精神的なる意味に於ての内鮮一體の紐帶は半島同胞の皇國臣民化運動の徹底により強化の一途を進みつゝある。

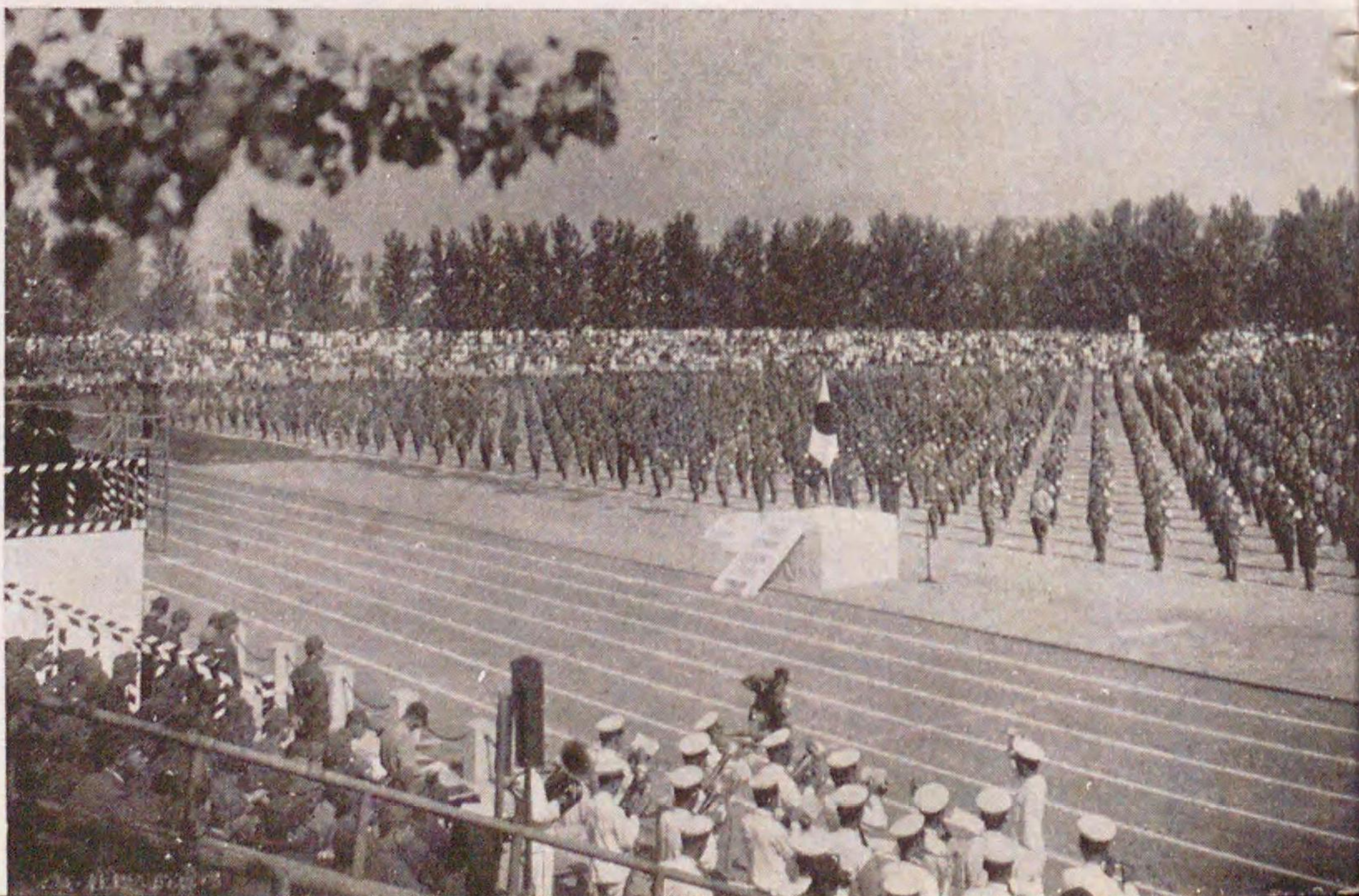
無論、この内鮮關係は日本國內のことであつて之を以て直ちに日滿關係や日支關係を律することは出来ないが、國の内外を問はず東亞新統一體のあらゆる成員に對して共存同榮の道義精神を布覆すべき時にあたり、朝鮮施政の理想であり實果である「内



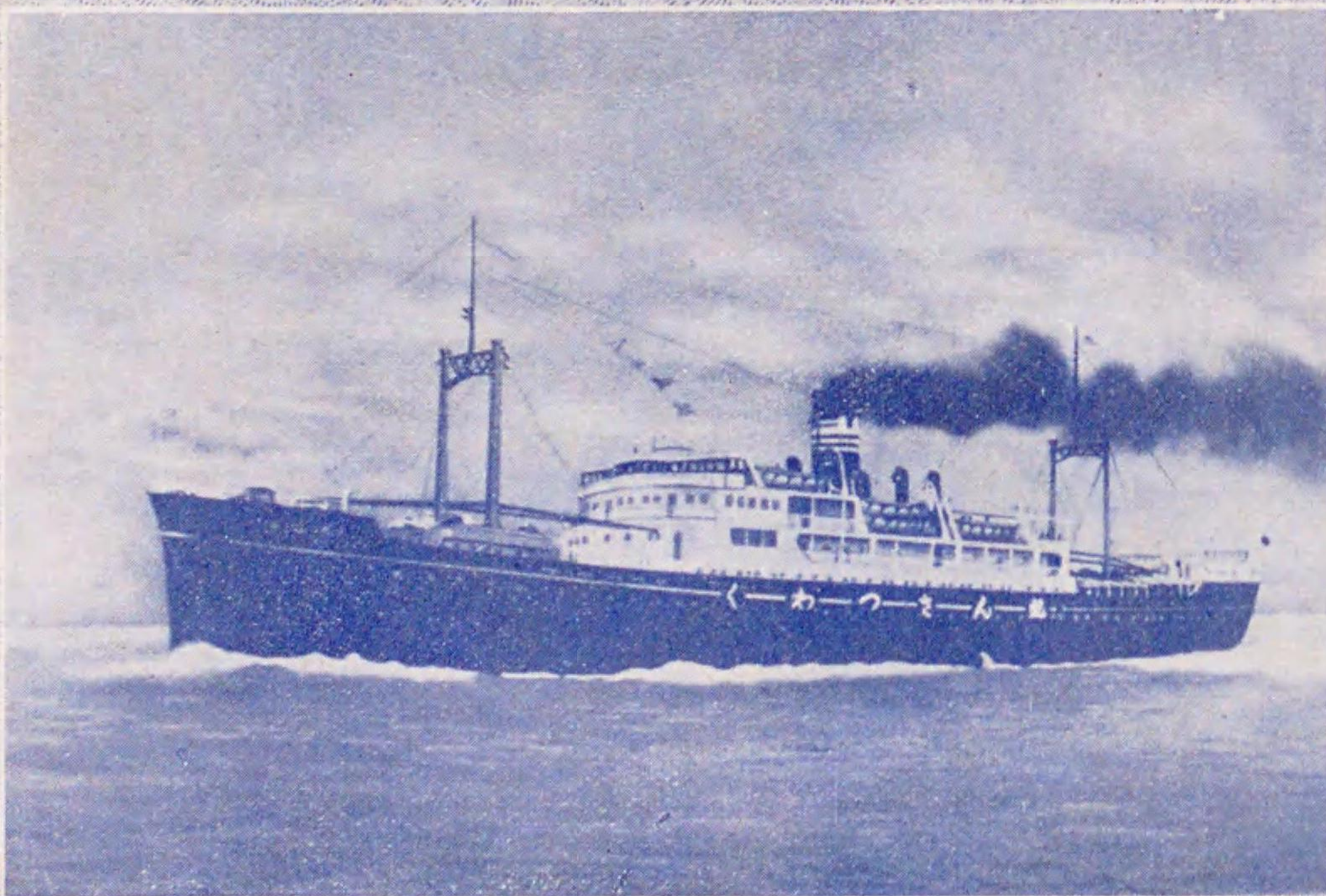
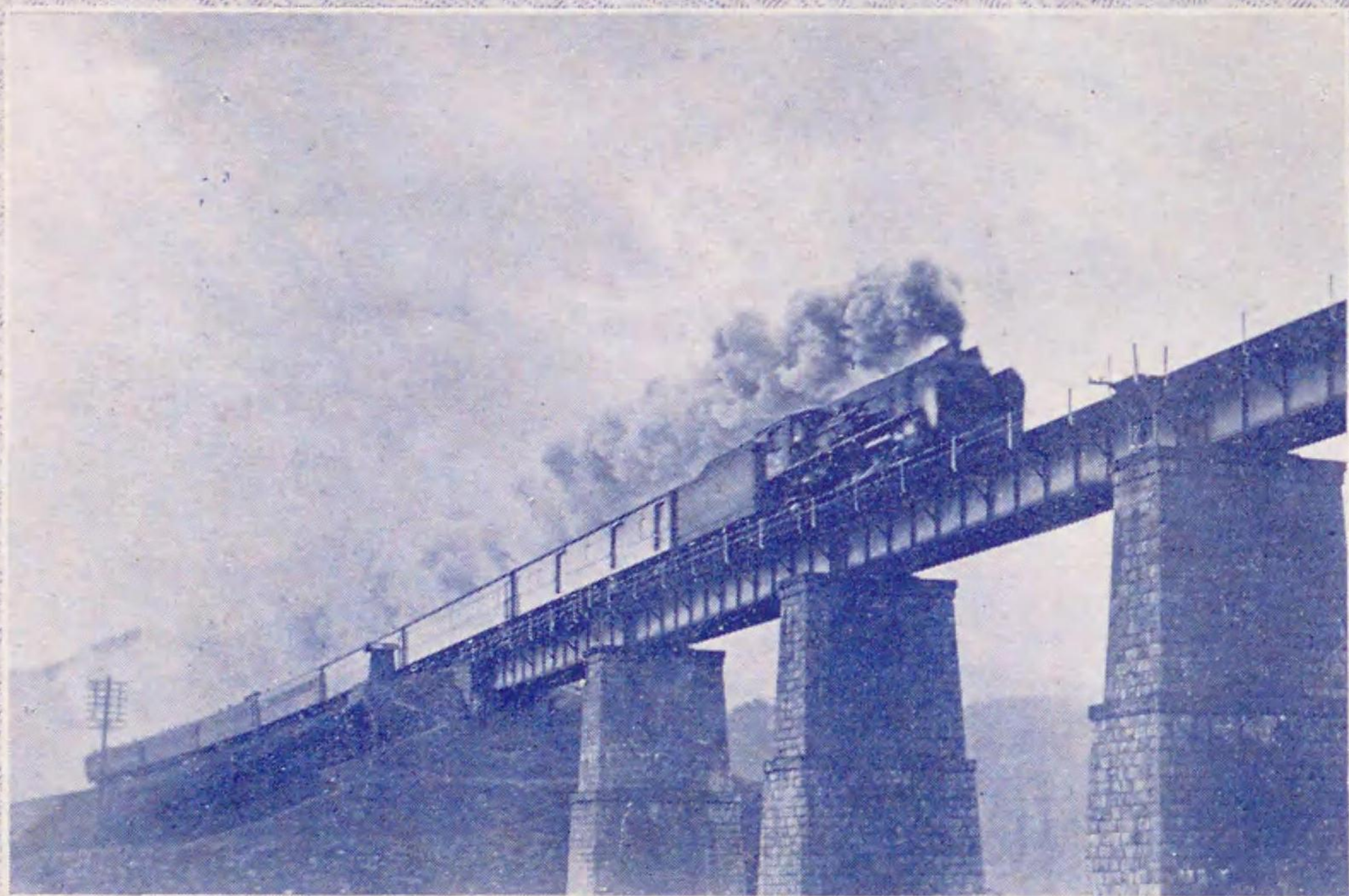
國旗の下



婦人勤勞報國隊



東亞青年團結
第五回大日本青年團大會



日滿鐵道船

鮮一體」の具象化が既に先蹤的なる意義を顯はして居ることを認取さるべきであらう。近年滿洲國・蒙疆・華北等からの朝鮮視察者も漸次増加し、之等の意味を内藏する躍進朝鮮の新面目に驚嘆せざるはない。獨逸の對日修交使節團は朝鮮を訪れたとき「日本の眞の姿を朝鮮に於て見るを得た」との言葉を殘した。

日滿一體の關係に於て、接壤の鮮滿關係は當然一如であらねばならない。即ち鴨綠豆滿兩江を以て劃つた舊き國境概念は著しく稀薄となり、兩江の水は鮮滿の間を結ぶ帶となり、共同文化を培ふ灌漑水となつて、交通・産業・經濟の上に比年契合を深めつゝある。在滿朝鮮人の數は百萬と註せられ年々五萬以上の開拓農民が朝鮮から入滿し民族協和の精神で滿洲國の發展に貢獻を期しつゝある。半島の産業・經濟開發に費されたる過去三十年の各種體驗は思ふに滿洲・北支等の開發に當つて相當の寄與を爲し得るであらう。

舉げ來れば興亞國策の遂行に對する朝鮮の地位は形而上下を通じて、決して小ならず、大陸問題を語る者、須く先づ朝鮮認識より出發すべきである。



朝鮮總督府

昭和十五年二月五日印刷 定價金十五錢
昭和十五年二月十一日發行

朝鮮總督府官房文書課

京城府太平通二丁目一番地

印刷所 大海堂印刷株式會社